

学校規模等適正化に関する説明会（川越小学校）における質疑回答

1. 日 時 平成 28 年 12 月 21 日（水） 午後 7 時から午後 8 時 30 分まで
2. 場 所 川越小学校 図書室（参加者 46 名）
3. 事務局 管理部：俣野参事、益田参事、兼瀬課長、北村主幹、松尾代理、
田中主任、廣瀬

4. 内 容

（質問 1）

前回の村野小校区と川越小校区の統合の際に、国道 168 号線の横断については、危険なので、歩道橋の整備をお願いしたが、実現していない。また、通学距離だけでなく、坂道を越えていく等、低学年の児童には時間もかかる。桜丘小に統合するなら理解できるが、審議会では、村野南町について、どのような審議がなされたのか。また、答申案に対する市民の意見募集について、周知方法が不徹底だったと感じた。今回の説明会は、最速で 5 年先の方策等について説明をしていただいているので、前回と異なり、十分な時間をとって進めることには評価をしたい。

（回答 1）

審議会では、中長期的な視点から検証がなされ、川越小が検討対象校とされたことについて説明させていただきました。通学距離や通学路の安全性の確保については、審議会でも議論がなされてきましたが、今後は必要に応じて、ハード整備も行いながら、安全対策については引き続き、保護者や地域の方々のご協力をお願いしたいと考えています。

インターネットアンケートの周知方法については、より幅広く周知できるよう工夫をしております。

（質問 2）

村野南町は桜丘小に統合されれば、国道を横断して通学するような危険な状態を解消できるのに、なぜ、開成小への統合なのか教えて欲しい。

（回答 2）

審議会では、春日小、山之上小、桜丘小との統合についても、通学距離、保有教室数、沿革等の 5 つの視点から総合的に検討いたしました。その結果、開成小との統合が最適であると示されたものです。しかしながら、茄子作東町地区については、他校区を横断する不自然な通学様態となることから、春日小へ編入することも併せて検討することと提言されました。

（質問 3）

13 年前、村野小の廃校の際に、一部が川越小に編入された。その地域は、もともと村野小の校区だったのだから、元に戻して、桜丘小に編入したらいいのではないか。答申ではその点を踏まえて審議されたのか。

(回答3)

審議会では、基本的に校区の分断を行わないことで審議がなされました。しかしながら、茄子作東町の春日小への編入案につきましては、学校統合を基本方策とした審議の中で、他校区を横断する不自然な通学様態を改善するための方策として検討することとされたものです。

(質問4)

答申の検討対象校の要件で、川越小は、小規模校と定義されているが、平成35年度には児童数がやや増加すると予測されているとのことから、その際には、検討対象校からはずされるということでもいいのか。また、統合せずに、校区変更という方法は検討されているのか。

(回答4)

今後、大規模開発などの要因により、児童数が増加した場合には、検討対象校から外れる可能性もございます。また、審議会では、校区変更は抜本的な解決にはならないことから、学校統合を基本方策として審議がなされています。なお、春日小校区の一部を川越小へ編入する案につきましては、春日小の保護者等の理解を得ることも課題のひとつであることから、検討するには至っておりません。

(質問5)

来年の入学を楽しみにしている子どもがいるが、何年生から転校するの、とよく聞いてくる。結論からいうと、5、6年先まで統合はないから、子どもに小学校の間は転校はないよ、と話をしてもいいのか教えて欲しい。

(回答5)

9月定例会議会の一般質問において、教育委員会の取り組みに関する今後の方向性について、お示しいたしました。まず、高陵小と中宮北小に特化して進めること。川越小も含めた他の学校の方策については、今後の児童生徒数の推移を注視しながら、5年程度を目途に改めてお示しをしていくこととするものです。また、実施時期については、仮に5年後に、学校統合の方策をお示ししたとしても、その後3年をかけて学校統合に関する協議・検討を行いますので、最短でも8年間は時間を要することになります。

(質問6)

茄子作東町の住民としては、春日小への編入ということなら、通学距離が近くて安全面でもありがたいが、子どもの気持ちを考えた場合、村野南町の場合も同じだが、別の学校へ行くことの辛さや学校がなくなるという犠牲の上での統合だということを忘れないで欲しい。また、学級数について、統合した場合の22学級は、通常学級だけの学級数なのか。学校教育においては、個別対応が必要な児童生徒のために、相談室等のゆとりのある教室配置が必要と考える。例えば一部の校区を桜丘小へ編入すれば、その分の児童が減り、開成小にも使用教室にゆとりができる、そういう視点も検討いただきたい。気持ちよく統廃合ができるよう、我々の気持ちも汲んで欲しい。

(回答6)

通学路の安全性、校区の編入の在り方も含め、今後適切な方策については、皆様のご意見もお聞きしながら、検討してまいります。また、統合校の22学級については、通常学級数を示したものになります。

(質問7)

学校が変わる(転校する)ということは子ども達にとって負担が大きく、前回の統廃合の際には、統合後の学校に通学した後においても、子ども達が苦勞した姿を見てきた。その際にも適正規模校の必要性を述べられていたが、小規模校では駄目なのかという疑問が払拭できない。今の川越小の良さを充実させる中で子ども達を見守っていくことをもっと考えて欲しい。統合という結論が答申で出されたが、もっと納得できる説明をしていただきたい。

(回答7)

本市では、市独自の少人数学級を実施しています。国では1年生まで、府は2年生までが35人学級ですが、本市では、4年生までを支援学級の児童も通常学級の1人としてカウントし、35人学級編制としています。更に、教育委員会として高学年、中学校まで拡充したいと国や府に要望をしています。しかしながら、児童生徒数が今後減少していく現状においては、学校統合も実施せざるを得ないと答申で示されています。

(質問8)

開成小に統合されると大規模校になって、教室数が足りなくなり、プレハブを使用せざるを得ないのでと危惧している。プレハブは音がうるさくて授業に集中できない。また、この地域から学校がなくなるとアナウンスしてしまうと、子どもを育てる世帯はこの地域に引っ越して来なくなり、逆に子どもが減ってしまうのではないか。フィンランドや新潟県では少人数学級をすすめていて、学力も高いということを知っている。もっと子どもを大事にする施策を進め、学校を無くさないでいただきたい。

(回答8)

児童生徒数が増加するなど、状況が変われば、学校統合する必要性もなくなるものと考えています。統合となる場合には、受け入れ可能な規模の学校を統合校とすることが基本ですので、プレハブを使用することはございません。

(質問9)

心を育てる段階にある子ども達にとっては、人間関係が深まりやすいというのは、小規模校として非常に大きなメリットである。一方、デメリットで挙げられた点は、そうは感じないし、教職員が足りないなら増やすことはできないのか。子どもの視点より、コスト面での提言ではないか。子どもを大切にしている施策が伝わってこない。

また、通学距離が近いというのは、一番大きなメリットであるのに、その指摘がない。何よりも子どもの安全を大切にしていきたい。

(回答9)

現在、教育現場では、子ども達が活躍したり、意見交流したり、発表し合ったりと子ども主体の教育活動と指導が行われてきています。その中で、多面的な見方のできる子どもを育てたいと願いながら教師は指導を行っています。そのためには、多くの意見に触れる機会、一定の集団規模が必要だと考えています。小規模校では、人間関係が固定化してしまうので、クラス替えのできる学年が必要であることを願うという声も聞いています。また、教員を増やすべきというご意見ですが、教員数は、学級数により決まり、国と府が費用を出していますので、増員することはなかなか厳しい状況です。しかしながら、本市では、市独自の少人数学級等の施策のために手厚く予算を確保しています。これらを踏まえ、子ども達のためによりよい教育を行っていきたいと考えています。